

水島行揚著

(再版)

吾人は何故に宗教を要するか

一千九百一十二年
明治四十二年

東京 正教本會編輯所

259

69

通俗正教 吾人は何故に宗教(ハリストスの正教)を要するが



宗教といふことを單に「教」と説いただけでも其人生に必要なことは甚だ明かです。儒教にも「人が無爲逸居して教なきは禽獸に近し」と申してあります。も一つ芝に聖の字を附けると其必要不可缺は愈々明かです。佛者も「聖教は水に似たり、見れば則ち心を澄ましむ、法門は玉の如く磨けば則ち光を増す」と申してゐます。所で一體宗教といふ語はどういふ意味か羅句語の「レリギオ」といふ語の直意「結合」即ち神と人を結び合せて天地を適和する者であるとする、愈々大に必要と趣味を生ずることであり、併しながら若も今日の如く教育の進歩した世の中であれば、吾人は何故に教育を要するかと云ふ様な問題は、敢て事々しく辨明するまでもない話です。又若も今日の如く經濟の盛んな世の中であ

吾人は何故に



れば、吾人は何故に金銭を蓄へなければならぬかと云ふ様な問題は、敢て説明の必要もありません。其通り、宗教と云ふ者も、なかく盛んで何處にも眞實の無宗教で立てをる人は無いぐらゐであれば、今更一般に宗教といふ者の吾人に必要といふ理由は、敢て辨明に及ばない様な者ですが、獨り私らの奉ずる所の宗教、即ち我が國では佛教などに較べると至て新參なるハリストス教、俗にいふ耶蘇教に付ては、いろく悪く言はれ、我が日本には全く無用であるかの様に申されてありますから、吾等は茲にわざく分り切たことこの辨明を致さなければならぬ次第となりました。丁度人生に衣食の必要を説く様な者です。殊に誤解の甚だしきは、同じ耶蘇教でも、英國から來てをるのは、日本と同盟國の宗教であるから善いとか、米國から來てをるのは日本と極仲の善い國の宗教であるから差支ないとか、獨逸、佛國から來てをるのは、共に我が國に學問、藝術、武術を教へた國の宗派であるから、取て宜しいとか、只露國ばかりは一も取る所のない

未開國であるから、露國から來てをる宗教は、我が國民に信仰させてはならぬとか云ふ妄言であります。併し幸に是の二十世紀の日本には、此様な根本的妄言を吐く者は、固り多くはありません。かういふことを曰ふ人は、たとひ多少の學問が有ても、宗教の事は全く知らず、或は少しばかり知ても、或私慾の爲に心が昏んで此様な根本的誤りを作すのです。抑宗教なる者は、其關係する國々が、同盟國であらうが、あるまいが、仲が善からうが、惡からうが、そんなことは如何でもよい、只其宗教が果して眞理であるかないか、果して吾人に安心立命を與へるかどうか、先づ此の點を問ふべきである。たとひ未開國から持て來ても、黄金は黄金の價がある、いくら文明國から來ても、黄銅は黄銅だけの價である。要點は、聖書に曰である通り『凡ソノ事ヲ察シテ善キ者ヲ執レ』といふ所に在ります(ソルン前)五の廿一。凡その事柄、乃ちいろくな教とか道とかいふ者の中で、果してどの宗教が果して眞理に合ひ且つ最も人生に満足を與へるかを研究して、其

最も善いと信ずる者を取れば宜しい。いくら我が國と仲が善いからとて、もと
 罪隸を免れない人間の群であるから、勝手につけば忽ち戦勝國民を侮辱して、罪
 もない學童まで排斥する様な流儀もあるし、先には我が國に學問藝術を教へて
 も、或國情の爲に後には我が國の不利益をたくなむといふ様な類がないでもな
 いないから、以上或誤解者の曰はれた様な國の事情如何は、敢て宗教の良否を
 判断する大切な標準とはなりません。若し夫れ或敵國が悪いならば其敵國を援
 けて共に我が國を恐迫した者も亦悪いのです。國が悪いといふ點を以て其宗
 教を悪いとする日には獨佛國のも悪い、支那から來た儒教も悪い様になりましや
 う。けれども智慮ある人は其處まで迷ふとはありません。

今世界で第一等の文明國と云へば、果して何國でしやうか、英國ですか、米國です
 か、佛國、或は獨逸でしやうか。勿論彼らは土耳其、支那、朝鮮などよりは、はるか
 高等の文明國に違ひない。けれども吾人の理想的文明進歩の絶頂には、まだ

非常に遠く間が隔たつてをるに相違ない。然らば今は其理想的文明進歩の絶
 頂に達した國は何處にもないか、否、あります、私たちが信じ且つ宣べつゝある所
 のハリストス正教は、即ち其最高無上の文明國から來たのであります。其れは何
 と申す國ですか、外ではない、預言者ダニイルの書(第二章)に所謂金の國も亡び、
 銀の國、銅の國、鐵と泥の國も相繼で亡び、後に大なる石の大なる山と爲たといふ
 國『天國』又は『ハリストス國』若くは『神之國』と申します。是の國は人を殺さず、
 隣を苦めず、人殺しの道具を造らず、弱い者をいじめず、所謂自然主義を以て婦女子
 を辱しめず、風俗壞亂の文學を以て人を迷はさず、驕らず、貪らず、僞らず、怒らず、
 妬まず、乃ち聖なる愛の團體である、『義』と『和平』と『聖碑』と『因ル』と『清キ』と
 『樂』とある。是れ我がハリストス正教の教ふる所、大約一千九百年間の教
 會歴史と全世界に存立せるハリストス正教會の定理に於て證明せらるゝ所です。
 私等は單に軽い意味で、斯の教が露西亞より來たとか、希臘より弘まツた

か、又は猶太のイエルサリムより出たとか申します。けれども其は形の上で斯の教を傳へた人間が此様な外國から来たといふことを申すまでのことで、只露人は日本人より先に斯の教を承たから、私に知らせてくれたといふまでのことです。其實斯の教は露人の者でもなく、希臘人の者でもなく、猶太人の者でもなく、乃ち天よりの教であります、天よりの大なる石の山であります。天と申しても、此の頭の上に見える大空のことではない、此の天よりもまだ高い、まだ測り知ることもできない聖なる無形界のところであります。聖書に『至高キニハ光榮ハト帝ニ歸シ』とありますが(ルカ二、即ちいと尊き神の寶座の在る所、諸天使と衆聖人が惟一の神に奉侍して其光榮を讚美してをる所です。斯く申すと、物質論者はそんな神とか天國とか云て手に取て見ることも出来ず取止めもない妄想見た様なことを曰た所で、東も西もさッぱり分らぬ、是れ一の迷信に過ぎない者であると申されるか知れませんが。成程天理教で笛や大鼓で數多の男女

が「悪きを拂ふで助けせよ」といふ一列すましてかんろうだい』と歌ふのを以て宗教と心得る様な流儀ではどう思はれるかも知れませんが、少し心のあるお方はよく考へてごらん下さい。道の本原は天より出でた者であるとは、我が國上下に最も信用せらるゝ儒教でも教ふる所です。地上の總ゆる國々を征服しても、天に敵することは出来ないとは、尅々たる武夫も唱ふる所です。天祐を保有するに依て、我が國が全世界無比の尊榮を續け、長足の進歩をなしたことは、上下一般の信する所ではありませんか。今夫れ陸海軍だの大中小の學校だのと云へば、皆有形の活きた物體の集合には、相違ありませんが、若も何人か、あなたがたに向つて『私に日本陸海軍を出して見せ』と迫つたからとて、あなたがたは、どのようにして之に應ずることが出来ますか。よし其人を青山の練兵場に連れて行つた所で、僅かに陸軍の一小部分たる歩兵か騎兵其他の軍人か武器かを見せるだけの事でしょう。或は之を參謀本部に携へた所で、一の大きな建物を示すに過ぎない。又或

人に日本の海軍を示さうとしても、僅かに水兵の數百人か、軍艦と水雷艇の二三、
 雙を見せせてやることさへ容易ではありません。併しながら普通知識ある人であ
 れば、たとひ此らの一を見ずとも、天賦の理性と信仰に依て、其國に陸海軍の
 整然として有ることを悟ることができません、其上に大元帥を戴けることを信じ
 ます。我らは英國の大學を一つも見ただけなく、獨逸の中學の半分を見たこ
 ともありません。けれども此れに依て何人も彼の國々に大學や中學の澤山有る
 ことを疑ひません、彼處に教育の大に盛んなことを信じてゐます、其は外には
 之を信するに足るだけの理由があり、内には之を悟るに足るだけの理性と信
 仰があるからです。然れば何人も此の様な天賦の理性と信仰を以てしたなら
 ば、今ハリストス教は天より出た、正教の本國は、天國であるといふことを悟る
 に付ても、敢て其國が東に在るとか、西にあるとか曰はなくても、善い筈でし
 やう、我々臣民の身命として、或外人が若し我が國に主權者の有ることを

信じないと曰たからとて、我國は彼に破格の拜謁を許す。ことは出來ない。其通
 り我々は、いくら物質論者から、『おれは神の有ることを信じないから、若し有
 るならおれの目の前に出して手に取て見せよ』と叫ばれた所で、其は出來ません、
 元來我ら人間には、そんなことをする權利がないのです。神といふ全世界の主
 權者は、神靈なる御身の存在を信せしむる爲に、我ら人類に理性と信仰といふ
 作用を賜與し、内には良心と道德上の觀念を以て、外には天地萬物と其間に行
 はるゝ理法を以て證明されてあります。聖書に是の事を謂て『神ノ事ニ於
 テ知ルベキ所ハ、彼ヲノ爲ニ明カナリ、神ハ彼ヲニ之ヲ顯
 ハセシ故ナリ。蓋シ彼(神)ノ見ル可ヲザル事、即チ其永遠ノ
 能ト神性ハ、創世ヨリ以來、造ラレタル物ヲ察スルニ由テ見
 ルベシ、故ニ彼ヲハ推諉スベキナシ』と申されてあります(ローマ書一)
 神といふ事によし如何なる意味を附けるとしても、いと尊くして、何事も出來ない

といふことのない天の神は、目に見えぬのが常然てあります。いと畏き御製にも『目に見えぬ神に向ひて耻ぢざるは人の心の誠なりけり』とあります。されば此上に我らは或不信者の爲に、神たる實體を引出して之を手に取りさせてまで信せしむる必要はありません。そんなことは、よし出来るとしても、我々神の前に卑賤なる罪人として甘んじて出来るわけの者でない、況や我ら人間は、彼のいと尊き限りなく儼かなる神を見るに堪へられぬ程弱き者なるに於ておや。曾て日蝕の時、凸面鏡で太陽を見て居て、忽ち眼球の破裂した人がありました。我らの眼は、とても太陽を直視するには堪へられぬ者です。日蝕の時でさへ右様に怪我があります、まして凸面鏡を用ふれば、尙更危い道理です。然るに世の中の物質論者は、靈魂の眼たる理性と信仰を以て神を見るの安全なるを悟らず、萬事肉眼の方に拘扼して、神を科學的に試験しなければ承知ができないとか、天國は科學上に反應がないから信じないとか申しますが、其科學といふのが、彼らの

爲に驕傲の凸面鏡なのです。彼らは十九世紀や廿世紀の科學を以て神の國を試験に懸けやうなどと謂ふのですから、其大膽さ加減は感服の至りですが、いくら試験せうとした所で、同じ科學の中でも地震の試験器を以て、天體の事を測ることはできない。其通り物質限りの科學を以て、全く非物質、即ち神靈界の事を測られる道理がない。これはどうしても特別の法、即ち天よりの宗教なるヘリストス正教の教ふる所に依らなければならぬ。嗚呼天よりの宗教、此れはどうでも天より降りし上帝の子の立てた御教でなくてはなりません。彼自らは是の事を謂て『我が天ヨリ降りシハ……我ヲ遣ハシ、父ノ旨ヲ行ハン爲ナリ』と仰せられました(イオアン六の卅八)吾人の天よりの宗教が、どうして入用なるかは此邊でも一寸分りませしやう。

抑人として全世界を征服して悉くの國民の上に王となる者は、古今一人もない。よし幾百歩譲つて大王アレキサンドルが東西兩半球の悉くの國土を征服

したとしても、遂に月世界に向つては、乃公の力に及ばないといふ歎息も出て来る。英國皇帝の領内には、二百六十五日大陽の没する日がないといふけれども、いづその事大陽其者を大英國の屬國にすることはできない。其はいくら名將勇士でも、いくら英雄豪傑でも、人間は全能者ではないからです。只獨り上帝の外に全能者はありません。其通りいくら學者大家でも、いくら大博士大教師でも、單に一代一地方の教師たるに留り、とても萬世萬國の悉くの民の上に教師となることはできません。なせなれば人はいくら進んでも人たるに止まるのみ、遂に全知者となることはできません。只悉くの人の上に教師となる者全知者は神ばかりです。人は物を知れば知る程、自己の不充分なことが分つて來るといふのが眞實の智者である。實際人は今に學問の事工業の事、何もかも研究中である、而して或部分は既に成功した様な者のまだく、前途は遠い、未知不可解の事はなかく多いのです。世の中には人生不可解と曰て生命の安實した男もあれば、萬有

可解と曰て切腹した女もある、而して其敵討に人違して罪もない者を殺傷しかけた老父もあります。然るに少しばかり何か知ると、直に科學の範圍以外にまで逸脱して、神は方便だの、來世は無いの、宗教は愚人の夢だなどといふのは、惟ふに其人の驕傲といふ凸面鏡が、心靈の眼を破裂したのぞはながらうかと疑はれます。太陽を見るには、之を見るの法がある、其通り神と天國を求むるには之を求むるの法がある。即ち驕傲自慢といふ天狗の様な凸面鏡を取除て虚心謙遜にして懸らねばならぬ。ハリストス 救世主は是の事を訓へて「神ノ貧シ半者バ 福ナリ、夫國ハ 彼ヲノ 所有 ナレバ 予リ」と仰せられてをります。又己れの内からは種々な汚らはしき念慮を去り、慾を抑へ、務めて淨き心を以て就かなければならぬ。大教師ハリストスは之を訓へて「心ノ淨キ者ハ 福ナリ 彼ヲハ 神ヲ 見シト スレバ 予リ」と仰せられました。此に神を見るとは、無論靈魂の眼で見ることです、佛者も「心清淨なれば如來現じ、水

虚明なれば、日月彰る」と申してゐます。乃ち淨き理性と美しき信仰を以て神を
 心の中に悟ることは、肉眼に見たも同然、否、肉眼に見た以上に善く分る者で
 あります。古の聖人、義人らは皆よく此様な福な域に達したのでした。然るに
 或人は其がどうも分らないと曰ふのは多くは心に淨くない所があるからです。
 上帝の言に「凡ソ不善ヲ作ス者ハ光ヲ惡ミテ光ニ就カズ、彼レ
 ノ行ヒテ責メラレザラン爲ナリ」と申されてあります(イオアン三)。
 トス上帝は「世の光」であります。そこで靈魂の目の健全なる人、善行を以て光を
 愛する人は、たとひ世の如何なる迫害が有ても、如何なる詭辨が出ても屈せず、毅
 然として其信仰を守り、或は様々な苦みを忍び、或は血を流し、或は骨となつ
 ても、ハリストス神の爲に其正教の爲に、其眞實なることを明し、其人生に必要
 不可欠の事を證據立てました。

宗教は、どうしても吾人に必要である。澤山の學問藝術の如きは、或人の爲には

必要で有ても、他の人の爲には餘り必要でないこともある。賣春婦には無教育者
 のみでなく、高等教育者でもある。教育は必ずしも其人を貴くする者ではありま
 せん。けれどもハリストスの正教は何人の爲にも必要である。なせなれば、人生の
 眞の價値と安心立命は只宗教に依て得らるゝばかりであるからです。學問は
 人々の知識を開きます、靜かに見える地球が動いて太陽が動くのではないとい
 ふことが分つたのも學問のお蔭です。漢法では死ぬる病人も西洋醫術では助か
 るといふのも學問の力です。けれども學問では此様な知識の本なる肝心の神の
 ことがよく分りません、神に肖たる靈魂のことがよく分りません。何れの學問藝
 術も人の存命中的なことばかりで、死後の運命は一向分りません。「未だ生を知ら
 ず、焉んぞ死を知らん」といふ流儀です。併し此らの事が分らぬと折角人と生
 れても、何の爲に生きとるか、さつぱり理由も分らず、動物と同じく死んで其れぎ
 りの者とすれば、果して人間の人間たる價値が何處に在るか知れません。けれど

もハリストスの正教は、吾人に第一に知るべき神のこゝとを知せしむ、いと趣味ある三位一體と其他の奥義をも悟らせしめ、世界の始めはとうてあつたか其終りはどうなるか、人間の靈魂は本死ぬべき者であるか、永遠不死の者であるか、本死すれば其前途、即ち來世はどのような有様であるか、此様な問題に付て満足すべき答は、只夫よりの宗教に依り得られます。斯いふ大切な事柄が分つてこそ人の人たる申妻ある眞の人間と謂ふべきでせう。此のような信仰に於てその教と、神の誠、即ち人として守るべき善行の教と、三つながら全備してハリストスの正教に在ります。若も人間の作つた不完全の宗教でさへも、古來其國々に道德界に利益したことは少からずとすれば、まして神の立てた完全至聖至善の正教に於ては、何れの國にも、其信仰界に道德界に利益することの大なるは申すまでもないまでもしやう。

若もハリストス教は、單に道德上の教のみとしても、其人世に有用有益なものは、識者の既に認むる所です。人をして卑劣に殘酷に陥らしむべき肉と慾は、ハリストス教の痛く抑制する所です。斯る肉慾、當世流行の自然主義と我利主義を抑へ一夫多妻の罪惡と其他の不法を斥け高上なる相愛と博愛を説く者はハリストス教です。ハリストス教のない所には、人としても眞の意味が分らぬ通り國家としても眞の光榮が著しくありません。そこで眞の人たるを願ふ人は、又眞の民として其神に忠なる如く其君に忠良の心を持てゐます。彼らは聖書に教ふる所は、悉く全備なる倫理上の金言と、信すべき眞理であることを知てゐます。故にまた信者でなくとも、聖書を愛讀する人で、頗る品性の高尚な人があります。不信者の中にもハリストスの福音を聴て、非常に人格を高めてゐる人は、決して少くありません。けれどもハリストス教が單に道德上の教のみに止まるとすれば、漸く世の倫理學と孔孟の教などに少しく異つて優つてゐると認めらるゝだけで、ただ人生に果して正教の何處がいよく、秀出であるかといふ點が著しく分りま

せん。之を著しく顯はすには、信仰の教、即ち定理に依らなければなりません。定理とは希臘語の「ドグマ」で、神の眞理、萬世不拔の信條であります。即ち道德の根本、倫理の土臺たる信ずべき定理です。若も此根本土臺がないといふと、百の善行論も、千の倫理説も、至つて其効力が薄弱です。世の倫理學が、人に倫理を説くけれども、どうも其土臺が分らぬで、動もすれば、我々は何故に善を行はなければならぬかといふ疑問を生じて、其解決に苦む様になつて來る。そこでハリストス教は、實に信仰と道德を一つに合せた宗教で、定理なる者は、斷じて世の學説の如く、昨是今非と變る者でない。たとひ此大なる天地は廢滅するとも神の言なる定理が變るといふことはありません。主のお言に「天地ハ廢セン 然レドモ我ガ言ハ廢セザラン」とあります(マコフヱイ) 卽ち立教の始から世界の終りに至るまで、人々が其本分を盡す爲に、安心立命の爲に、必ず信すべく守るべき眞理である。此眞理、即ち定理といふ土臺の上に、百千の倫理は建築せらる

るのである。そこで千万の道德も定理の上に立てられなくては、所謂空中の樓閣か、歴氣樓の様な者で、一時立派に見えても、とても永遠に續いて效のある者でない。さればハリストス教は萬善の根本として惟一の神を教ふる、是の實在の神は、たしかに道德の根本である。是の神と人の親密なる關係を規定したる信仰の教は、即ち悉くの倫理の土臺で、若も此上に立てられた善行は、常に今世に於て名譽なるのみならず、常に良心の快きを覺ゆるのみならず、確かに來世まで續いて、我らの救ひに助くる者であります。神の定理に基かない善行は善には相違ないけれども、何となく價值が卑く、動もすれば世の名譽の爲、習慣性に因る不得已に出で、又は虚榮の奴となつて、とても永遠なる神の前に高き價值のある者でありません。

若も我らが今世限りの者であれば、常に宗教がいらぬのみならず、或は教育も道德も經濟も何もいらぬかも知れぬ。けれども人間は決して今世限りの

者でない、身体は死んでも靈魂は死なぬ。人間が今世でなした善惡は、皆死後に其應報を受けなければならぬ。斯く申すと、又例の妄想かと笑ふ。お方があるか知れませんが、兎に角、我々人間には良心と云ふ者が有て、己れのなした善惡を裁判します。たとひ此世の裁判所の裁判は免れても、己れの内部なる良心の裁判は、免れることができません。そこで古の大聖人は此様に訓へてをります。「汝らは己が良心の裁判すら免るゝ能はざるに、如何して公義なる神の裁判を免るゝを得んや」と。實に其通りではありませんか、良心は自分の所有でありながら、自分の惡ふ様になりません。私が詐欺を犯して、自ら此は悪いけれど、責めてくれなと曰た所で、良心は承知しません。私が盗をして、此は如何にも上手に仕事をしたから、賞めてくれと申した所で、良心は斷じて賞め所ではない、大に叱り付けます。しかも其叱り責むるのは、一時で済むではない、罪の大小輕重に従ひ、良心は永久に之を責めます。人殺しをした者が幸に三十年の時効に懸つた所で、

其間の心の苦みといふ者は實に日夜監獄に繋がれて責められる様な苦痛です。斯く人は自ら己れの内の審判があるのは、是れ確かに外に神の審判があると、いふ預兆であります。多くの不徳義を作した人だけ、死ぬる時に自ら苦みが多いのは、此理に外ならぬのです。或は私は何も悪いことをしないと云ふ人があるか知れませんが、其は自分一個の偏頗を免れない認めでして、公義なる神の前に、何人も罪は免れません。あ、誰か此様な罪あるまゝ、苦しい世渡りをして今世には良心に苦み、來世には測る可らざる禍を受け、それでも善いと曰はれまじやうか。先づ普通人心を持てゐる人は、若も茲に此罪を消して淨き人となり得らるべき道があることを知つたなら、悦んで之に就くべきでじやう。死は、どうでも免れないが、同じことなら、死ぬる時に、傍にゐる人も見るに忍ばれぬやうな苦みをせずになるべく安然として終り、而して來世に其靈魂は福なる永遠の生命を續けられる法があることを知たならば、何人も生命を愛する人は、

必ず之に趨り就くべきでしやう。今ハリストスの正教は、即ち是です。此人々の要求に應ずる者です。即ちハリストス教は、世界を造つた神造物主の子なるイ、ス、ハリストスが世に降りて人となり少しも罪なく悉くの善行美德に富める御身を以て、全世界古今及び將來の人々に代りて、御身に苦みを受け、終に十字架の死と大功徳を以て、我ら人々の爲に救ひの道を立て、くださったことを教へます。而して誰でも神の子救世主を信じて洗禮を領すれば、其罪を赦され、天國に入る資格を得らるゝことを訓へます。世に云ふ安心立命の本意は即ち此に在ります。諸の痛み心の悩みの本なる罪を赦されて淨き人となることです。聖なる天の社會——天國——に入て永遠の生命を嗣ぐことです。之を正教で一口に云へば「救ひ」を享るのです。そこで吾人は何故にハリストスの正教を要するか、其を以上お話し申した事に由て箇條を分けて申せば、第一、神を敬ひ人として知るべきことを知り、行ふべきことを行ふて眞の人となる爲です。

第二、國家に對しては忠良の民となり國光を彰はす眞の民となる爲であります。第三、此世でも恆に平安にして終に永遠の生命即ち「救ひ」を享んことを望む爲です。萬物の靈たる人として若も眞の人とならず、眞の民とならず、而して永遠の救ひに就かなければ人の人たる甲斐がありません。

以上申述べた所は、また浩大なるハリストス正教の内部には深く立入ることが出来ませんでした。何分このような小冊子のことですから、殊に著者の目的とする所は、讀者が此れに依て、果してハリストス教が、世に謂ふような悪い者でなく、乃ち人生に必要な者であるといふだけをお認めになつて、其から引續き正教研究の善き希望を起さるれば宜しいのです。幸に其様な御希望を起された諸君は、其こそ御自分一個の發心でなく、確に天に在す上帝の恩寵に因る者ですから、決して浮世の煩しき妨げの爲に、其善い希望を無くすることなく、若も其近傍に正教會の教師が在れば、其に就

吾人は何故に

て救ひの正教を御しらへなさい。若も其邊に教師がないならば、此著者に
 向け若くは東京なる正教本會に書面で御質しなされてよのしうござります。
 斯の教の教理全体を極簡短に解いた者は『初學ハリストス正教問答』といふ
 のが あります。特に『救ひ』の教理に付ては『神救世主略話』といふ小冊子に
 稍詳かです。

願くは至仁の主天よりの上帝イ、ス、ハリストス及び撫恤者聖神は、我が同胞
 國民即ち愛すべき兄弟姉妹等を佑けて救ひに必要なる正教の眞理を悟らしめん
 こを、及び我が全日本に神の國即ちハリストス正教會の益々彰はれんことを、
 アミン。



明治四十二年三月廿八日初版印刷
 四十二年三月十五日全版印刷
 四十二年三月十七日再版印刷

定價金參錢

著者 東京府北豊島郡瀧野川村大字田端五十番地 水島行 楊
 印刷者 東京市神田區三崎町三丁目一番地 西幸吉
 印刷所 東京市神田區三崎町三丁目一番地 日本印刷株式會社
 發行所 東京市神田區駿河臺東紅梅町六番地 正教本會編輯所

電話本局二千五百六十九番

再版○正教會に來れ全一冊……………價金貳錢五厘。郵税四冊まで貳錢。

再版○神造物主略話 口繪二枚入……………價金參錢。郵税三冊まで貳錢。

新刊○初學ハリストス正教問答 口繪入……………價金五錢。郵税三冊まで貳錢。

新刊○神救世主略話 挿畫四枚……………價金五錢五厘。郵税二冊まで貳錢。

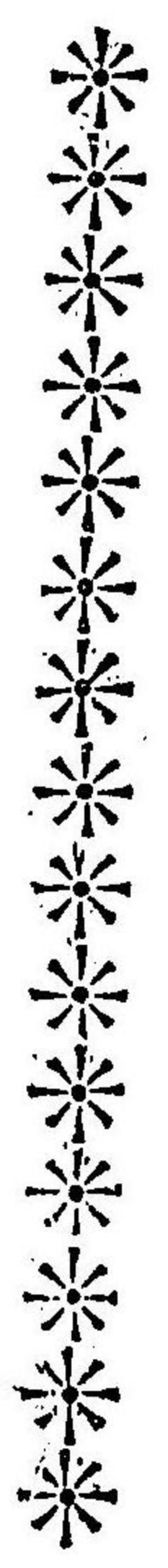
三版○ハリストス神の子 口繪入……………價金四錢。郵税三冊まで貳錢。

259
69

水島行

て救ひの正教を御しらべなさい。若も其邊に教師がないならば、此著者に
 向け若くは東京なる正教本會に書面で御質しなされてよつしうござります。
 斯の教の教理全体を極簡短に解いた者は『初學ハリストス正教問答』といふ
 のがあります。特に『救ひ』の教理に付ては『神救世主略話』といふ小冊子に
 稍詳かです。

願くは至仁の主天よりの上帝イ、ス、ハリストス及び撫恤者聖神は、我が同胞
 國民即ち愛すべき兄弟姉妹等を佑けて、救ひに必要な正教の眞理を悟らしめん
 こを、及び我が全日本に神の國即ちハリストス正教會の益々彰はれんことを、
 アミン。



明治四十年二月廿八日初版印刷
 四十二年三月五日全版印刷
 四十二年二月三十日再版印刷
 四十二年二月七日再版發行

定價金參錢

著者 東京府北豊島郡瀧野川村大字田端五十番地 水島行 楊
 兼發行者 東京市神田區三崎町三丁目一番地 幸吉
 印刷者 東京市神田區三崎町三丁目一番地 西
 印刷所 東京市神田區駿河臺東紅梅町六番地 日本印刷株式會社
 發行所 東京市神田區駿河臺東紅梅町六番地 正教本會編輯所

電話本局二千五百六十九番

259
69

水島行

- 再版 ○ 正教會に來れ 全一冊……………價 金貳錢五厘。郵稅四冊まで貳錢。
- 再版 ○ 神造物主略話 口繪二枚入……………價 金參錢。郵稅三冊まで貳錢。
- 新刊 ○ 初學ハリストス正教問答 口繪入……………價 金五錢。郵稅三冊まで貳錢。
- 新刊 ○ 神救世主略話 挿畫四枚……………價 金五錢五厘。郵稅二冊まで貳錢。
- 三版 ○ ハリストス神の子 口繪入……………價 金四錢。郵稅三冊まで貳錢。

◎信者に修養の爲及び
未信者に研究の爲

新刊小冊子廣告

斯民と斯教全一冊以下同……………定價 金三錢

福音略話(ハリストス教の事)……………金五錢

聖二者の教(ハリストス正教の事)……………金五錢

善行と眞福(眞福九端に基きて述ぶ)……………金四錢

醇正の教(上帝の十誡に基く)……………金三錢

天父の教(主の祈禱に基く)……………金三錢

發行所 東京神田區駿河臺 正教會事務所

電話本局二千五百六十九番

◎宛錢貳各は税郵◎

44
12

特46

833

吾人は何故に宗教を要するか

国立国会図書館

020646-000-8

特46-833

吾人は何故に宗教（ハリストスの正教）を要するか

（2版）

水島 行揚／著

M42

ABI-0462

